



☆ 漢方のおはなし ☆

8月から新河端病院で、火・木・金曜日に内科・漢方内科外来を担当させていただくことになりました、皆川 玲(みなかわ れい)と申します。月曜日の午前中は、太秦の河端病院にて外来を担当させていただいております。どうぞよろしく願い申し上げます。

さて、最近ではCMなどで目にすることも多くなりましたが、まだ「漢方薬」についてなじみにくい、分かりにくい、などのお考えもあるでしょう。

また、西洋薬とどう違うの？一緒に飲んで大丈夫なの？副作用はないの？など不安になる方もおられるでしょう。



そこで分かりやすい処方箋からご紹介していきながら、そのような疑問にもお答えしたいと思います。

例えば今年の夏の暑さは大変なもので、各地で記録を更新しておりましたね。9月に入って多少は涼しくなったとはいえ、まだ夏の疲れが取れない、食欲不振、胃もたれ、汗疹、冷房の効きすぎによる体調不良 など、様々な不調に悩まれている方も多いことでしょう。

この時期にありがちな症状に対して、以下の処方どれかがお役にたてるかもしれません。

『六君子湯(りっくんしとう)』

手足が冷えやすい方の、お腹がちやぶちやぶする、胃もたれがして食欲がない、胸やけがする、などの症状に効果があります。

『補中益気湯(ほちゅうえつきとう)』

食欲不振、やる気がない、体がだるい、汗が多い などの症状に効果があります。

『当帰四逆加呉茱萸生姜湯(とうきしぎやくかごしゆゆしょうきょうとう)』

クーラーの冷気で体調不良になる、もともと冷え性の方によく使われる漢方です。しもやけの治療などにも使われます。

冷えて頭痛がする場合などにも有効です。お味は少し苦く感じる方が多いようです。

『消風散(しょうふうさん)』

汗疹や湿疹は皮膚科の領域ですが、皮膚疾患に使われる漢方薬もあります。消風散は、夏に悪化するジクジクした湿疹に有効です。

エキス剤の素のほとんどは「生薬」と言われる植物性のものであり、野菜に対してアレルギーがある方がおられるのと同様、漢方薬服用後に、下痢・嘔気・皮疹などの症状が現れることもあります。その時は服用をすぐにやめて主治医にご相談ください。

また、患者様の症状によっては西洋薬との併用や、採血や消化管内視鏡など一般的な検査を必要とする場合もあります。



夏の疲れ食欲不振、冷えなどに使われる漢方薬は、これだけではありません。他にも様々な種類があります。当院では、ひとりひとりの患者様の「証」に合わせて、保険診療のエキス剤を処方しております。

どのようにして「証」を決めるのか？そもそも「証」とは何なのか？これについては、また機会があれば書かせていただきます。

ご興味を持たれた方、漢方外来へどうぞ。

新河端病院 理念

信頼と安心の医療

- ・患者様に感動をしていただける医療を実践します
- ・患者様に選んでいただける病院づくりを実践し

「患者さまの権利」

- 患者さまには次のような権利があります。私たちはその権利を尊重するような医療を行います。
- ・医療を受ける権利
 - ・知る権利
 - ・自分で決定する権利
 - ・プライバシーを守られる権利

医療法人 医修会 新河端病院



病院に対するご意見ご希望、また「ふれあい」へのご意見をお聞かせ下さい。(備え付けの意見箱をご利用下さい。)